

行政視察報告書

参加議員	木下靖、奈良祥孝、竹山美虎、工藤健
調査期間	令和5年10月17日（火）～令和5年10月19日（木）
調査先 及び 調査事項	① 富山県氷見市 氷見市子ども・子育て支援事業計画について ② 福井県福井市 にぎわい交流施設について、ふくまち大学について

視察概要

■ 調査先① 富山県氷見市

■ 調査事項 氷見市子ども・子育て支援事業計画について

■ 調査内容

現状：人口（2000年）5万6680人、2022年4万4076人、22%の減少。

出生数（2000年）440人、2022年182人、59%減少。

氷見市第9次総合計画の重点施策でもストップ少子化を目指す。

1 子育てしやすい環境づくりの充実

【子育て応援】

- ・ 保育料の無料化
- ・ 副食費（おかず代）の無料化
- ・ あったかごはん給食の実施。コシヒカリをJAから寄付協賛。
- ・ 家庭で子育て応援金の支給 ※在宅含む
- ・ 子ども医療費の無料化 高校3年生まで医療費を助成。
- ・ 公立認定こども園の整備
- ・ 子ども発達支援施設の整備
- ・ 子育てサポートの充実
- ・ パパの育休参加のサポート
- ・ 孫とおでかけ支援事業（県事業）

【妊娠・出産】

- ・ 応援ギフトの支給
- ・ 出生のお祝い
- ・ 妊婦健診の助成
- ・ 妊産婦医療費の助成
- ・ 不妊治療費の助成

【生活支援（給付金・移住定住など）】

- ・ 子育て世帯生活支援特別給付金
- ・ 子育て世帯応援給付金
- ・ 子ども食堂支援事業
- ・ 民間保育所等物価高対策支援事業
- ・ 子育て世帯への電気料金割引



【移住生活応援金】

- ・ 定住マイホーム取得支援補助金
- ・ 定住促進賃貸住宅家賃補助
- ・ ぶり奨学プログラム

2 地域子育てセンターをハブにした支援ネットワーク

- ・ 市役所子育て支援課
- ・ 市役所健康化子育て世代包括支援センター
- ・ 保育園・認定こども園
- ・ 各種関係機関 社会福祉協議会、教育委員会、厚生センター
- ・ 地区子育てサークル
- ・ 地元ボランティア

【所感】

高岡駅から氷見線で約30分。駅からつながる長い商店街は空き店舗が目立つものの、藤子不二雄の出身地とあって、商店街にはキャラクターを模したマスコットが多く配置されている。地方都市にありがちな市役所を含め商業施設の郊外化もあって、まちづくりには苦労している様子が伺えるが、海沿いには、富山湾の向こうに北アルプスを望む港や緑地空間も整備され、「氷見漁港場外市場ひみ番屋街」には平日でも多くの観光客で賑わっていた。

人口減少はなかなか止まらないとはいえ、移住・定住人口もあり、地域おこし協力隊も定着している。子育て事業は、結婚から妊娠、育児と息の長い切れ目のない政策であるだけに、市内に子育ての拠点を8か所設け、きめ細かいメニューと市民ぐるみのネットワークを生かした支援となっている。

政策説明を受けた市役所は、廃校となった高校の校舎や体育館を生かした庁舎。数々の工夫とセンス、手作り感に加えて、氷見市の魅力を凝縮したPRビデオのクオリティに大いにシビックプライドを感じるようになった。



視 察 概 要

■ 調査先② 福井県福井市

■ 調査事項 にぎわい交流施設・ふくまち大学

■ 調査内容

1 福井市にぎわい交流施設について

【主な経緯】

- 平成 14 年 1 月 生活創庫（(株)ユニー閉店）
4 月 福井駅西口中央地区開発基本構想策定
- 平成 16 年 12 月 県・市で西口駅前広場拡張整備の方向性合意
- 平成 18 年 12 月 再開発準備組合の設立
- 平成 19 年 12 月 都市計画の決定
- 平成 20 年 12 月 ホテル誘致を断念し、私有施設の導入を提案
- 平成 21 年 6 月 福井駅西口中央地区市街地再開発事業委員会
NHKへ参画要請、「分棟案」の提案
- 平成 22 年 5 月 県都活性化対策特別委員会で市関連施設を提案
- 平成 22 年 11 月 NHKから参画困難の回答「マンションとの共存困難」
⇒原点へ戻る
- ・西口駅前広場の早期整備
 - ・過度に大きな規模としない再開発

平成 23 年 8 月 西口再開発対策特別委員会において「再構築案」提案

【ハピテラス（屋根付き広場）】

- ・大屋根のかかった全天候型の屋外広場（約 630 平方メートル）
- ・飲食イベント、物品販売、スポーツ大会、各種展示など稼働率 95%

【ハピリンホール（多目的ホール）】

- ・能舞台利用・ステージ利用・フロア利用など年間稼働率 75%

【所感】

人口 26 万人台と、本市と同規模の都市とは思えないほど駅前にはぎわっている。化石が多数発掘されている恐竜ロボットも一役買っているが、再開発事業による駅前空間の再構築が功を奏していると感じる。現在も新たな恐竜ロボット設置工事が進められている。

ハピテラスは冬期間スケートリンクとしての利用もなされ、その利活用範囲の広さが際立つ。施設全体の整備事業費は 137 億円とのことであったが、現状その目的は十分に果たしていると感じた。都市の顔ともいえる駅前空間については、本市としては大いに参考にしたい。

2 ふくまち大学について

【設立の背景】

令和4年10月、県都にぎわい創生協議会において、2040年頃を目標とする長期構想「県都グランドデザイン」が策定・公開された。

- ・「県都グランドデザイン」が目指す「場」づくり
- ・「様々な世代や立場の人が混ざり合う場」福井まちなか。
- ・ここから新しい「たのしみ」、「くらし」、「しごと」を共に創り出し、まち全体へ広げていく。
- ・開学 令和4年7月30日（土）
- ・まち全体をキャンパスとして、様々な場所を活用しながら講座を展開。

【令和4年度 活動実績】

- ・自主講座数 13回
- ・延べ参加者数 約500名
- ・利用会場数 10会場
- ・参画「せんせい」数 16人

【令和5年度 活動実績】（令和5年10月16日現在）

- ・自主講座数 8回
- ・延べ参加者数 約230名
- ・利用会場数 8会場
- ・参画「せんせい」数 11人

【今後の課題と取組み】

- ・自主財源の獲得
- ・現在は県・市の補助金が主
- ・受講料は1000円／講座
- ・運営経費は1000万円程度
- ・今後は民間企業との連携を検討
- ・2000人／年 以上の参加者を目標とする

【所感】

来年3月の北陸新幹線乗り入れを前に、まち全体として活気に満ちた盛り上がりを感じる。ハピテラス、ハピリンホールというハードと、ふくまち大学というソフトの両面で、福井に活気とにぎわいをもたらそうという熱気と勢いをひしひしと感じた視察であった。本市においても市民の様々な活動に対して、行政としてどう関わり、活性化を促すことができるかを問い、議員として提言していきたい。

